

はじめに

公益社団法人高崎青年会議所と高崎市役所が協働により開催した、「たかさき市民討議会VOICE2013」が、市民の皆様の活発な議論により有意義な形で終えることができました。ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。

5年目を迎える本年は、大テーマを「考えよう！暮らし続けたい街～つながりから始まるまちづくり～」とし、近年希薄になってきている“地域のつながり”に着目をして討議会を進めました。

討議を進めるにあたり、情報提供をいただく方も地域のつながりを意識して選ばせていただきました。NPO法人の方や地域の区長様、商店街の関係者や商店主、行政関係者など幅広く情報提供をしていただきました。きっと参加していただきました市民の皆様にも改めて自らの地域のつながりに向き合ってください、より良い地域を描きながら討論していただけたと感じています。

市民討議会は無作為抽出された市民が、公共的課題に対してグループに分かれて意見を出し合ってくださいます。その意見をこのような形で報告書としてまとめ、市民の声を行政にとどけ、まちづくりに活かす市民参加型の討議会です。

実際にその地域で暮らす住民の声が、より良い高崎のまちづくりに活かされる事は、市民が主体となって、自ら考え、行動していく事につながっていくはずです。市民と行政が一体となってより良い地域づくりを行っていく。これから先、もっともつつながりを深めた高崎市はきっと誰もが暮らし続けたい高崎市になっていくのではないのでしょうか。

最後に、本市民討議会開催にあたりご参加いただいた市民の皆様をはじめ、ご協力いただきました関係者の皆様に感謝を申し上げ、冒頭の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

平成25年12月吉日
たかさき市民討議会VOICE2013実行委員会
実行委員長 宮田 誠



実施報告書目次

はじめに

第1章 たかさき市民討議会VOICE2013について

- 1-1 市民討議会とは
- 1-2 実施目的
- 1-3 実施概要
- 1-4 開催までの流れ
- 1-5 開催当日の流れ

第2章 討議結果とまとめ

- 討議1 『私たちのつながりの現状について』～今の私のつながり
- 討議2 『地域のつながりを生む場はこれだ！』
- 討議3 『地域において世代間のつながりを生むのはこれだ！』
- 討議4 『地域内のつながりを強くする便利なコミュニティバスはこれだ！』
- 討議5 『つながりから生まれる中心市街地の活性化はこれだ！』
- 討議6 『暮らし続けたい街たかさき』一番重要なつながりはこれだ！』

第3章 当日アンケート結果について

第4章 たかさき市民討議会VOICE2013の検証と評価

- 4-1 検証
- 4-2 中間報告会

おわりに

参考資料

第1章 たかさき市民討議会VOICE2013について

1-1 市民討議会とは

市民討議会とは、ドイツの学者ペーター・C・ディーネル博士が1970年代に考案した市民参加の手法「プラーヌクスツェレ」を参考に、日本で改良された新しい市民参加の手法です。

ディーネル博士はプラーヌクスツェレの定義を「無作為抽出で選ばれ、限られた期間、有償で、日々の労働から解放され、進行役のアシストを受けつつ、事前に与えられた解決可能な計画に関する課題に取り組む市民グループである。」としています。

無作為抽出という「きっかけ」づくりをすることで、行政に対して普段意見を言う機会が少ない市民が、自分の考えや意見を述べることができ、市民の知恵や経験、アイデア、感覚が行政の施策に反映される新しい民主主義のかたちとして位置付けられています。

市民の立場から言えば、行政に対し積極的な参加意識を持たない市民が、地域や社会の問題を話し合うことで、話し合いの中で、自分たちは何をすべきかを自ら考え、行動の意識付けをする「自立した市民」の形成につながるものです。

1-2 実施目的

高崎市では、高崎市市民参加推進計画（平成18年度策定）に基づき、市民の声を施策に生かすため、公募による市民会議や、パブリックコメントなど積極的に取り組んでいます。

しかし、これまでの市民参加の手法では、日頃から積極的に市政に参加している方からの意見が多く、市政に参加したことがない方からの意見は決して多いとはいえません。本当の意味での市民参加とは、声を上げない多数の市民（サイレントマジョリティ）までも取り込んだものでなくてはなりません。

そのため、新たな市民参加の手法として、これまでの市民参加の手法では汲み取ることのできなかった「声なき声」を聴くため、市民討議会という新たな手法を用い、真の市民参加を推進していくことを開催の目的としています。

さらに市民討議会に参加した方々が、今後も市政に深い関心を持ち、声を上げていくことで、市民意識の醸成が図られ、住民自治による協働のまちづくりを推進する第一歩に繋がると考えております。

これまでに高崎市において平成21年より計4回の市民討議会が開催されました。開催を通じて、上記目的に対しこの手法が有用であると考えられ、本年も継続し開催することにしました。

今年の高さき市民討議会は、次の内容で行いました。

- ① 高崎市にお住まいの市民の中から1300名を無作為抽出し参加案内を送付する。
- ② 9月7日(土)、8日(日)の2日間を計6コマに分ける。
- ③ 『地域のつながり』をメインテーマとする。
- ④ 地域のつながりの現状把握と今後重要と思われる施策について6つの小テーマを設定する。
- ⑤ 市民は1テーブル5人程度に分かれ、情報提供を受けた上で、グループ内で意見を出し合い合意形成のうえ発表、さらに全体の意見から最も共感を得た意見に投票し、市民討議会全体としての合意形成を図る。

1-3 実施概要

今回、高さき市民討議会VOICE2013の開催にあたっては、市民参加と協働のまちづくりをさらに進めるため、公益社団法人高崎青年会議所と高崎市とでパートナーシップ協定を締結し、共催で取り組みました。

- (1) 開催日 平成25年9月7日(土)、8日(日)
- (2) 開催場所 高崎市総合保健センター2階 第1会議室
- (3) 主催 高さき市民討議会VOICE2013実行委員会
- (4) テーマ 『考えよう！暮らし続けたい街～つながりから始まるまちづくり～』
- (5) 参加者 34名(7日34名、8日31名参加)

1-4 開催までの流れ

(1) テーマの選定

今年は、高さきが暮らし続けたい街であるために求められる「地域のつながり」を大テーマとして取り上げました。

現代社会では、人々の暮らしの中に心の豊かさが重視されるようになり、地域のつながりは心の豊かさを得るために必要であり、重要な役割を担っていることが認識されてきております。群馬県が平成24年9月に策定した「ぐんままちづくりビジョン」においても、望ましい「ぐんまのまち」の将来像として「ぐんまらしい持続可能なまち」を挙げ、「持続可能な」まちのイメージの一つとして「人と人とのつながりが確保できる社会」を挙げております。

このように高さきが心の豊かさを持ち暮らし続けたい街であるためには、地域のつながりは重要であり、このテーマを考えるにはつながりを作る市民自らが課題を共有し、解決策を考える必要があります、市民討議会のテーマにふさわしいと考えました。

テーマは6つの小テーマに分け、討議1でつながりの現状を把握し、討議2においてつながりを生む場について大掴みに討議を行い、討議3から討議5において具体的な問題に焦点を当てて討議を行い、討議6で全体のまとめとして一番重要なつながりを討議しました。

(2) 参加者の抽出・決定

住民基本台帳から18歳から75歳までの市民1300名を無作為に抽出し、市民討議会の参加依頼書及びチラシを送付しました。

その中から参加に承諾していただいた市民39名に参加者を決定し、参加決定通知書を送付いたしました。その後、開催当日までに数人から欠席の連絡があり、1日目(9月7日)の参加者は34名となりました。さらに2日目(9月8日)に関しては3名の欠席(内1名は途中退席)があり、参加者は31名でした。

1-5 開催当日の流れ

討議は、6コマに分け、合計6回の討議を実施しました。1日目の9月7日に討議1及び討議2、2日目の9月8日に討議3～6を実施しました。

参加者は全員が個人の意見を発表しやすい環境を作るため、5名前後のグループとなり、各グループで討議を行いました。また、グループ内で意見の偏りが発生することを防ぐため、各討議終了後にグループメンバーを入れ替え、メンバー決めはランダムになるよう「くじ引き」で決定しました。

各グループではあらかじめくじ引きで進行役、書記、発表者の役割を決め討議を開始します。

討議の進め方は原則として、情報提供 ⇒ 自己紹介 ⇒ ブレーンストーミング ⇒ グループ討議1(質疑応答) ⇒ グループ討議2(意見のまとめ) ⇒ 全体発表 ⇒ 投票 ⇒ 結果確認、の流れで実施しました。ただし、討議1に関しては各個人の意見抽出と共有を目的としたため投票は行いませんでした。

<1日目>

- 討議1 『私たちのつながりの現状について』～今の私のつながり
- 討議2 『地域のつながりを生む場はこれだ!』

<2日目>

- 討議3 『地域において世代間のつながりを生むのはこれだ!』
- 討議4 『地域内のつながりを強くする便利なコミュニティバスはこれだ!』
- 討議5 『つながりから生まれる中心市街地の活性化はこれだ!』
- 討議6 『暮らし続けたい街たかさき』一番重要なつながりはこれだ!』

(1) 情報提供

テーマに関する基礎知識や現在の取り組みなどを参加者にレクチャーしました。情報提供者は討議の方向性に影響を与えないように公平な情報を提供するよう心掛けました。

(2) 自己紹介

討議を行う前に、テーブルごとにメンバー同士の簡単な自己紹介を行いました。

(3) ブレーンストーミング

テーマについて思いついたアイデアを順番に発言していきます。発言した内容は書記役が付箋に書き出します。

〔ブレーンストーミングに際して留意していただいた事項〕

- ① 難しく考えず、思いついたアイデアをたくさん出すこと。
- ② 実現可能か考えず、自由に発想すること。
- ③ 他人の意見を批判しないこと。
- ④ 他人の意見から連想したり、他人の意見に付け加えて意見を出してもよいこと。

(4) グループ討議 1 (質疑応答)

付箋に書いた意見について、何か疑問な点がありませんかと、参加者に聞いていきます。このとき出た新しい意見は付箋カードに書き加えます。

〔グループ討議に際して留意していただいた事項〕

- ① 他人の意見を批判することが目的ではなく、討議素材を付け加えることが目的であること。
- ② 出た意見の意味や発言の背景をはっきりさせることも目的であること。

(5) グループ討議 2 (合意形成)

討議シートに貼られた付箋をもとに、それぞれの意見についてグループ内で討議をし、似通った意見や共通の意見をまとめていきます。ある程度の意見がまとまったら特に採用したい意見を討議シートの意見のまとめ欄に記入しました。

〔グループ討議に際して留意していただいた事項〕

人の意見を聞いて自分の意見を変えても構わないこと。

(6) 発表・投票

あらかじめ決められた発表者がグループ内の意見を取りまとめ発表します。実際に討議に使用した討議シートを前方に貼りだし、参加者全員に見えるように合意形成の流れと、その結果導き出された特に採用したい意見を発表します。

(7) 投票

全体発表が終了したら各グループの討議シートを会場内に掲示し各個人の投票に移ります。参加者は1人3票を持ち、発表された全意見の中から特に共感を得た3票に投票しました。投票はグループ毎に順番に行いました。

(8) 結果発表

全員の投票が終了したら早急に集計を行い、討議全体で最も票を得た3つの意見(第3位まで)をその場で発表しました。その後、討議シートは会場外の廊下に掲示し、各意見がどれだけ票を得たか分かるようにしました。